



2014年10月発行

船橋市学童保育連絡協議会

公式サイト <http://homepage2.nifty.com/fghrk/>

メール fghrk_info@freeml.com



速報

「指導員不足の実態が明らかになりました。」

船橋市長宛の要望書に対する回答が10月20日にありました。回答では、指導員の配置基準と10月1日現在での指導員配置の実数が公表されましたので、お伝えします。

尚、回答の概略は次回ニュースでお知らせします。全文は、HPに掲載します。

(1) 職種別の不足数

非常勤職員 33名不足（事故対策5名を含む）

非常勤職員の不足を補助職員で補っていますが、それでも4名不足しています。

非常勤職員を補う補助職員 4名不足

児童数による補助職員の加配 4名不足

障がい児に対する補助職員の加配 23名不足

パート指導員 1名不足

(2) ルーム別不足数 職種を問わず、必要数－配置実数で計算しました。

2名不足 5ルーム

湊、南本町第2、海神第2、三咲第1、法典第1

1名不足 22ルーム

若松第1、峰台第2、市場、西海神第2、海神南、葛飾第1、小栗原第1、小栗原第2、三咲第2、八木が谷、法典第2、塚田第2、行田西第1、飯山満第1、飯山満第2、七林第1、三山第1、高根台第二、高根台第三第1、習志野台第二、坪井第1、大穴

現在、2015年1月1日採用で25名が募集されています。しかしながら、7/1採用も10/1採用も10名以下しか採用されていません。

指導員不足を解消するためには、非常勤職員の労働条件の抜本的な改善が必要とされています。

8月発行の記事を再掲します。(指導員の不足は10/1現在の数字です。)

放課後ルームの「質の向上」を実現しましょう。

指導員不足の解消に向けて

10月1日現在で、33名の非常勤職員が不足しています。

この背景には、待遇が非常勤職員で年収約200万円程度、臨時指導員年収90~120万円程度、また経験加算制度、一時金制度や退職金制度もないという労働条件の悪さがあります。

(参考) 千葉市、市川市の勤務条件

千葉市 千葉市社会福祉協議会 嘱託職員 年収 約250万

市川市 市川市社会福祉協議会 正規職員 年収 232万~264万

非常勤指導員の退職者は昨年10月から4月までの半年間で22人にも及んでいます。平均勤務期間は6.7年と意外に長く見られますが、経験の浅い指導員の入れ替えが激しいことの表れと言えます。このことは、子どもたちのルーム生活が不安定になる大きな要因となっています。

また、研修も年4回程度と不十分です。放課後ルームの質を向上させるために、指導員の労働条件の改善が必要です。

国は、「職員(常勤的非常勤1名)を配置するための追加費用を支援する」とし、消費税を財源とした施策を実施しています。具体的には1施設当たり156万の人件費加算の予算を確保しています。この予算は全て消費税が充てられるので船橋の独自財源は不要です。しかしながら、船橋市はこの予算(保育緊急確保事業)を利用するための申請を提出していません。

非常勤指導員の待遇を抜本的に改善しなければ、人材確保は困難です。他の市に人材が流失している現実を打開するために早急に待遇を改善する必要があります。

●配置基準

児童数	~50人	51~60人	61~70人	71~80人	81~90人	91~100人	101人以上
非常勤職員(週5日、1日6時間)	3人	3人	4人	4人	5人	5人	6人
補助指導員(週5日、1日5時間)		1人		1人		1人	
パート指導員(週4日、1日5時間)	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
常時人数	3人	4人	4人	5人	5人	6人	6人
三季パート(週6日、1日5時間)	2人	3人	3人	3人	3人	3人	4人

※障がいを持つ児童3人に1名の補助指導員を加配。